

3 地域別の動向

(1) 北海道



北海道地域では、景気は持ち直しの動きが見られる。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに持ち直している。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、下げ止まりつつある。

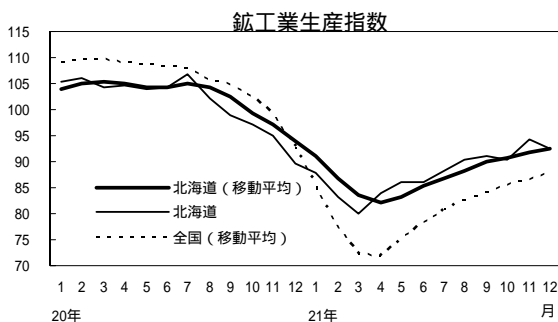
(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)

前回調査からの主要変更点

	前回(平成21年11月)	今回(平成22年2月)
住宅建設	大幅に減少	大幅に増加

1. 生産及び企業動向

- (1) 第一次産業は、生乳生産、水産物の水揚量ともに前年を上回っている。
10~12月期は、生乳生産は、牛乳等向けが減少したものの、乳製品向けが増加したため、総量では962,023tと前年比0.1%増となった。水産物の水揚量(主要8港)は、さんま等を中心に前年を上回っている。
- (2) 鉱工業生産は緩やかに持ち直している。
食料品は、余剰生乳対策の影響もありチーズ、バターを中心に増加した。パルプ・紙は、前半期の定期修理による反動から増加した。鉄鋼は、自動車向けの特殊鋼棒鋼や普通鋼棒鋼を中心に増加している。電気機械は、自動車やデジタル家電向けに、集積回路、シリコンウェハなどの電子部品が増加している。金属製品は、在庫調整に加え、飲料品向けの缶の生産の鈍化もあり減少した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		7~9 月期	10~12 月期	10~12 月期	10~12 月期
食料品	23.9	2.0	1.8	0.4	2.9
パルプ・紙	10.7	5.0	2.3	0.2	0.8
鉄鋼	8.6	26.1	14.9	9.4	3.3
電気機械	8.4	25.1	6.4	5.6	10.5
金属製品	8.0	11.8	1.2	1.7	21.4
鉱工業	100.0	5.4	2.9	3.1	0.4

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

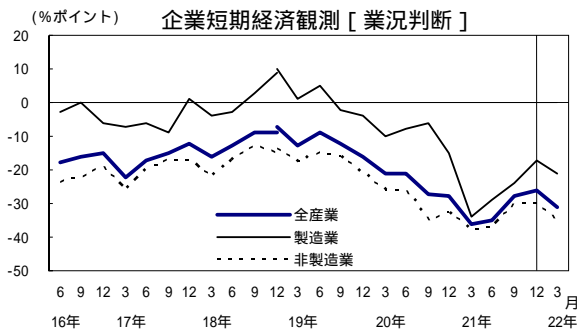
2. 10~12月期は速報値。

(備考) 1. 17年=100、季節調整値、北海道の最新月は速報値。

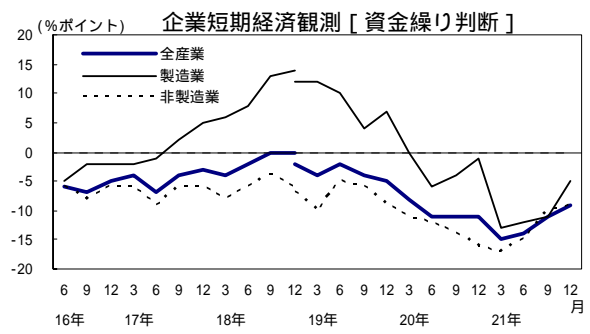
2. 全国及び北海道の大線は後方3か月移動平均。

(3) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ縮小している。

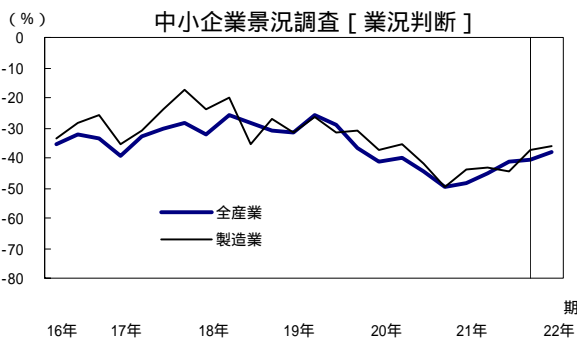
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。22年3月は予測。18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。22年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(12月)[企業動向関連(現状)]

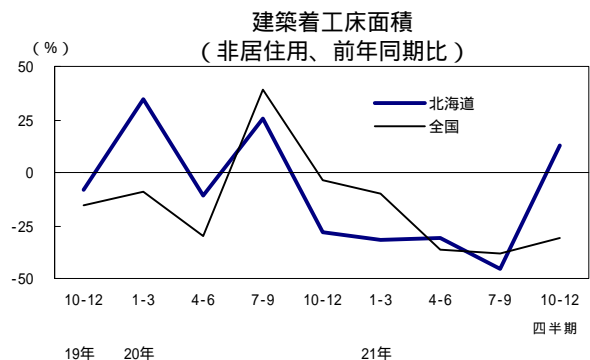
「一般家庭用の家具は低位安定しているが、法人需要は極端に低迷している(家具製造業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(4) 21年度の設備投資は前年度を大幅に下回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(12月調査)]

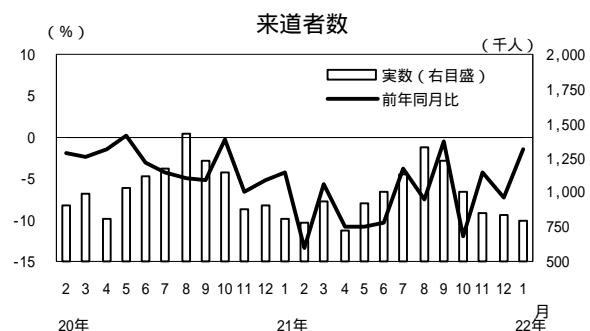
	(前年度比、%)	
	20年度実績	21年度計画
全産業	5.1	36.2(0.8)
製造業	21.7	53.3(13.6)
非製造業	6.9	27.3(4.4)

(備考)()は前回(9月)調査比修正率。電気・ガスを除く。



(5) 観光は、弱い動きが続いている。

来道者数は、10月は、9月の大型連休への需要シフトの反動と、新型インフルエンザ等から、低下幅が拡大した。11月は、鉄道旅客向けの企画切符の売れ行き的好調等により、低下幅が減少した。12月は、年末年始の日並びの影響もあり、低下幅は拡大した。1月は、スキー旅行等の需要が伸びたこと等から低下幅は縮小した。



(備考)北海道観光振興機構調べ。

(1) 北海道

2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直しの動きがみられる。

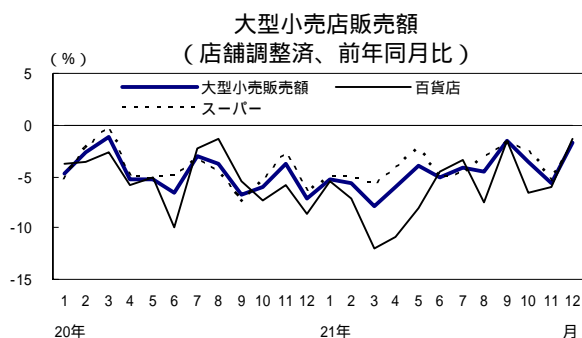
大型小売店販売額

百貨店は、10月は、9月の大型連休の反動に加え、比較的暖かい日が続き、秋冬物の動きが鈍くなったため、前年を下回った。11月は、降雪が遅かったことなどにより秋冬物衣料の動きが鈍かったことから、前年を下回った。12月は、セールの前倒し、気温の低下により、冬物衣料や身の回り品に動きがあったほか、クリスマスケーキやおせちが好調であり、前年比減少幅を縮小させた。日本百貨店協会によると、1月の売上高は札幌地区で前年同月比2.5%減、札幌を除く北海道地区で同13.9%増となっている。

スーパーは10、11月と地元球団の優勝セールがあったものの、客単価の下落や買物頻度の減少が影響し、前年比を下回った。

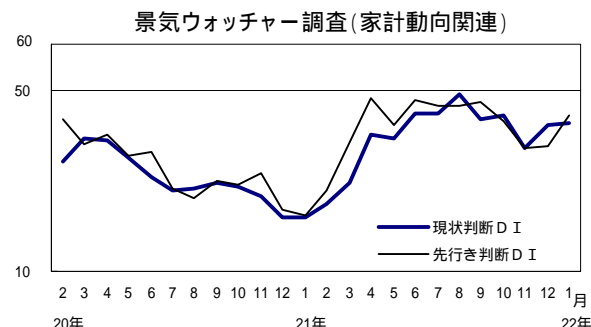
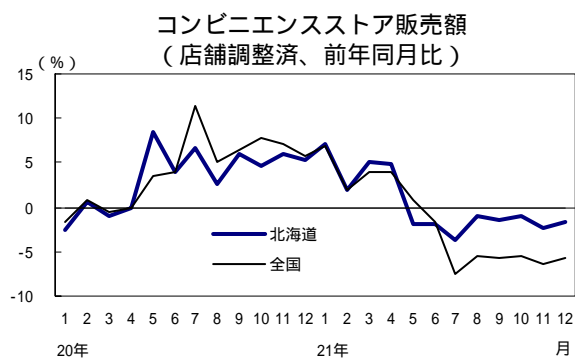
景気ウォッチャー調査(12月)[家計動向関連(現状)]

「今前半はあまり客足もなく、今年も厳しくなることを見込んでいたが、月半ばを過ぎてから、忘年会などで客の動きがみられるようになり、後半は良くなってきた(スナック)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	(前年同期比、%)			
	21年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
大型小売店	6.3	5.1	3.5	3.5
百貨店	8.3	7.8	4.1	4.3
スーパー	5.4	3.9	3.3	3.2
乗用車	22.4	13.3	4.4	18.2
景気ウォッチャー	25.3	41.4	45.8	41.1

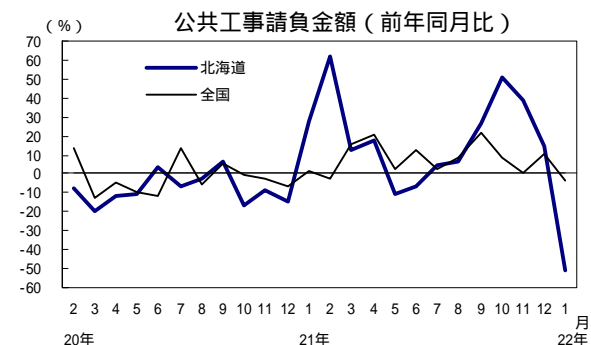
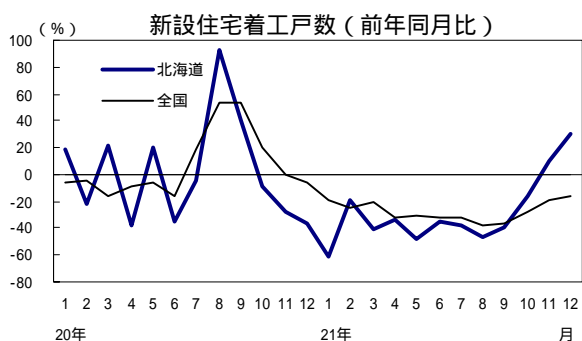
- (備考) 1. 大型小売店は店舗調整済。
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断D Iの3か月平均。
3. 乗用車は乗用車新規登録・届出台数。



(2) 住宅建設は大幅に増加している。

持家、貸家が前年を上回ったことから、大幅に増加している。

(3) 公共投資は21年度累計で見ると前年度を上回っている。



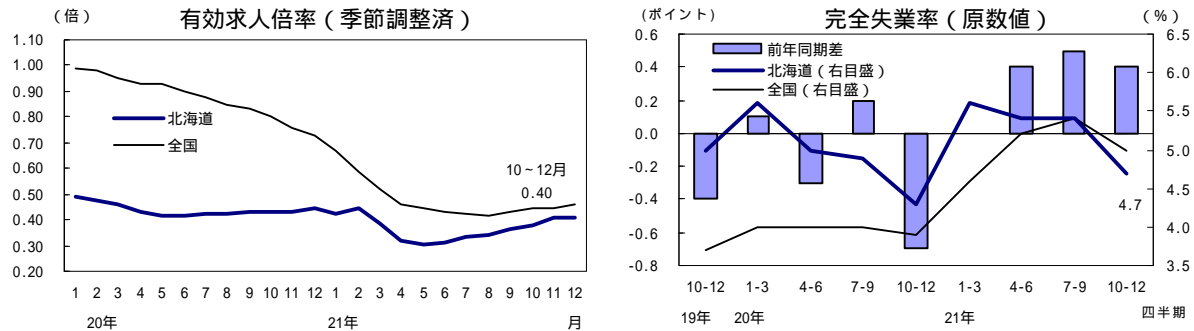
3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、下げ止まりつつある。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率(全数)は上昇し、有効求人倍率(常用)については前年同期を下回っている。完全失業率は前年同期を上回っている。

有効求人倍率の動きには平成19年末の北海道労働局の求人数の計上方法変更も影響しているとみられる。



景気ウォッチャー調査(1月)[雇用関連(現状)]

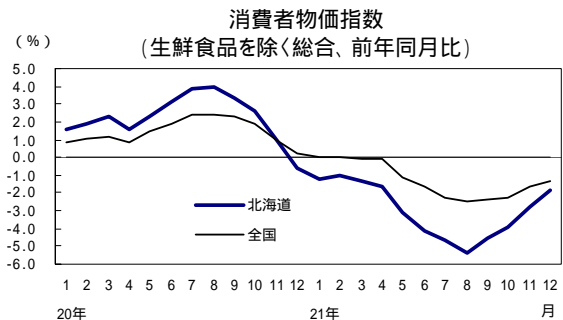
「就職環境において、例年であれば今年度の卒業生と来年度の卒業生の動きが交錯する時期であるが、企業側の2010年採用は多くが終わっており、大学側としては求人紹介などの指導すべき情報が少ない(学校[大学])」など「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数は大幅に減少し、負債総額は減少している。

(3) 消費者物価指数は前年比の下落幅が縮小している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	21年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	22年1月
倒産件数	175	156	108	116	38
(前年比)	4.2	16.6	43.2	38.6	36.7
負債総額	1,088	719	404	398	120
(前年比)	55.5	63.6	42.7	30.1	82.1



景気ウォッチャー調査(1月)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

・買上点数が増加しており、客単価は低いものの購買につながってきている。今まではやや悪い状況にあったが、今月に入り多少の回復傾向を感じる(百貨店)。

<先行き>

・1月は例年より雪が多く降ったため、タクシーの売上は前年を10%上回っているが、夜の繁華街をみると、まさに不況の一言に尽きる本当に悪い状態にある。市内では20人に1人が生活保護を受けているという実態が明らかになり、今後も悪化傾向が続く(タクシー運転手)。

